教育研究所だより
令和7年度（2025年度）
9月号（通算260号）

輝動（きどう）

（きどう：子どもが輝き、躍動するまち）

近江八幡市教育研究所
℡0748-36-5574
FAX　32-3352
メール
044800@city.omihachiman.lg.jp

『世界の見え方を変える』

～ダンゴムシと二宮金次郎像～

馬渕小学校　校長　山崎真奈美

　朝、昇降口に立っていると、子どもたちがいろいろなもの見つけてきます。それは、ガラスのかけらや空き缶のこともありますが、色とりどりの花や落ち葉であったり、きれいな石や薄い羽根のような初氷であったりします。生き物を連れて校長室に飛び込んでくることもあります。子どもたちは、いつも季節と驚きを運んでくるのです。

　ある日、ダンゴムシを掌にのせていると、「それ、どうするの？」と尋ねてきた子がいました。私は、春になるとダンゴムシを何匹ももらうので、そのたびに二宮金次郎像の台座の下に逃がしていました。「二宮さんの下のダンゴムシマンションに入ってもらうよ。」と答えると、「二宮さんて、誰？」と聞いてきました。「そこに立っているでしょ。」と一緒に二宮金次郎像の方を見ると、「ああ、変なランドセルしょってる人？ジャンボタニシの卵みたいな。」と、その子が言いました。なるほど、真横から見ると薪の断面が丸いので、ジャンボタニシの卵を背負っているように見えなくもありません。大発見です！朝から大笑いをしてしまいした。

　昔は、どの学校にもあった二宮金次郎像ですが、今ではずいぶん減っています。私は、学校に当たり前にあるものとして注意を払っていなかったことを反省しました。そして、子どもたちに話をするために調べていたところ、『知恵があっても学があっても、至誠と実行がなければ事は成らない』という言葉に行き当たりました。「易しく言うと、知識や考える力があっても、たくさん勉強しても、まごころと行動する力がなかったら、どんなことも成功しないって言葉なんだけど。」と子どもたちに伝え「何か気づかない？」と尋ねると、「まごころのある子？」「まじめに　まごころ…。」「学ぶ…行動する！」とつぶやきが聞こえました。本校教育目標「まごころのある子　深く考える子　力いっぱいがんばる子」と、スローガン「まじめに　まごころ　まなびや　まぶち　～学ぶ・考える・行動する～」にぴったりだったのです。ダンゴムシをきっかけに、二宮さんは勤勉なだけでなく、学校教育目標を体現する存在となりました。校舎立て直しの際、二宮金次郎像を移設してくださった地域の方に深く感謝をしています。

　今、子どもたちは二宮金次郎像を認識しています。「○○小学校にも二宮さんがいた。」と報告してくれる子もいます。学んで意識したことで、何気なく見ていたものがはっきりとした輪郭を持つようになったのでしょう。私は、学ぶ（知る・気づく）ことは、『世界の見え方を変える』ことだと子どもたちに伝えています。下を向いて過ごしていては、楽しいことや面白いことは目に入りません。自分の周りに興味を持ち、調べたり考えたり関わったりすることが、子どもたちが生きていくこの世界を色とりどりに見せるのだと信じています。

　子どもたちの純粋で感度の良い目は、今度は何を見つけてくれるのか？何に気づかせ、学ばせてくれるのか？ワクワクしながら、毎朝、昇降口に立っています。

【研修・研究事業報告】

★第２回近江八幡市初任者研修

□「学校事務と給与制度」
　桐原小学校 永野 ともこ 主任事務主査、赤部 大介 事務主査
□「近江八幡の歴史について」
　教育研究所 五嶋 弘道 学校支援コーディネーター
□「沖島の歴史と文化について」
　沖島小学校 中島 文男 校長

日時　７月１日（火）
場所　近江八幡市役所南別館（午前）
　　　沖島小学校（午後）

「学校事務と給与制度」を受講して、今後に生かそうと考えたこと

・近江八幡市での学校事務の共同実施では、教職員の事務負担軽減につながる各種様式の統一や・各種システム提供をしてくださっていることや、学年会計システムの作成、休暇願の様式統一などをはじめ、教職員が働きやすいように事務の適正化・平準化・効率化を進めてくださっていることが分かり、事務の方のご協力があって、日々の授業や業務に取り組めていることを痛感しました。

「近江八幡の歴史について」を聞きもっと知りたいと思ったことや児童生徒に伝えたいこと

・もっと知りたいことは、近江八幡の魅力についてである。特に、ウィリアム・メレル・ヴォーリズさんに関しては、大学時代に受講していた科目で自分が建築の美しさに感銘を受けたことがあり、実際にウィリアム・メレル・ヴォーリズ博物館に足を運んでみたいと心から思った。子どもたちにも、このような近江八幡の歴史や魅力を伝えることは、地元愛につながると考えられる。そこで、普段の会話の中でもこのような会話を取り入れて子どもたちと一緒に学んでいきたい。

「沖島小学校長講話」「沖島小学校見学」から学んだこと、実践に生かそうと考えたこと

・滋賀県民であるにも関わらず、沖島が淡水に浮かぶ島に人が生活している世界的にも珍しい島であることを知らなかった。その珍しい島が近江八幡にある誇りを子どもたちに伝えたい。沖島小学校に実際に行くからこそ知ることがたくさんあった。学校の規模感、自然の豊かさ、人の温かさなどである。これらのことや給食の運搬、下校の仕方、同じクラスに 30 人を超えるクラスメイトがいること等、勤務校で普通に生活していることが当たり前ではないことを子どもたちに伝えたい。

（受講者の振り返りより一部抜粋）

★夏季休業中の講座：教育相談講座（全４回）

講座１(7.24)：子どもの心の状態を家族構成図（ジェノグラム）からアセスメントする　吉山宜秀　市教育相談室専門員
講座２(7.28)：ヤングケアラー支援の課題と学校の役割　斎藤真緒　立命館大学産業社会学部教授
講座３(7.31)：不登校支援対策～データから見る市内の不登校の現状～　吉山宜秀　市教育相談室専門員
講座４(8.5)：いじめについて考える～早期対応の重要性～　吉山宜秀　市教育相談室専門員

・ヤングケアラーが進路を狭められてしまうという現実があることを心苦しく思いました。「否定しない、アドバイスしない」という関わりは自分に必要なことなので、２学期からもっと意識していきたいです。（講座２）

・不登校に関するデータを、これほどたくさん見たことがなかったので、とても興味深く話を聞くことができた。中学校においては、一度不登校になった生徒が復帰できる可能性が２５％以下だということを知り、何よりも新たに不登校になってしまう生徒の数を減らすことが大切だということがわかり、改めて日々の生徒との関わり方や学級経営の大切さを理解することができた。（講座３）

★夏季休業中の講座：保育・授業力アップ講座（ネタの種講座）

講座１：「ネット社会の歩き方」情報モラルセミナー、ワークショップ

７月 30 日(水)　会場：桐原コミセン 大会議室

講師：公立大学法人新見公立大学
健康保育学科　特任教授　梶本 佳照　氏

【参加者の感想】

・「生成 AI を前任者と思え」この言葉が刺さりました。生成 AI を前任者と思い１からすべてを作るのではなく、前任者の文書・資料を今年度用に変えるイメージがすごくスッと落ちました。生成 AI、どんどん活用してみたいです。

講座２：「楽しく歌いながら合唱指導のポイントをマスターしよう！」

７月 31 日(木)　会場：岡山小学校　音楽室

講師：八幡中学校　音羽 智香　教諭

【参加者の感想】

・小学校の曲を音羽先生が中学校で教えておられる視点で分析していただくのがとても学びになりました。小学校での学びが中学校での学びにこうつながっているんだ！！と勉強になりました。「フレーズ」だとか難しい言葉も、音羽先生のようにイメージを膨らませる言葉選びで子どもたちに伝えていきたいです!!

講座３：「かいてわくわく、よんでうきうき、つながる・つなげるドキュメンテーション」

８月１日(金)　会場：金田幼稚園

講師：金田幼稚園　今西　慈　教諭

【参加者の感想】

・ドキュメンテーションを通して、自分の保育の振り返りになり、子どもたちの育ちに気づくきっかけにもなると実感した。子どもたちと遊びを楽しみながら、自分も楽しんでドキュメンテーションを書きたい。

・園で遊びを通しての学びや成長の過程をお聞きし、まさに子ども主体の探究的な活動をされているなと感じました。小・中学校での探究的な学びに通ずることが多くあり、大変参考になりました。

講座４：「２学期から即実践できる単元内自由進度学習の授業を作る～個別最適な学びの必要性を学ぶ～」

８月１日(金)　会場：金田小学校　多目的ホール

講師：秦荘西小学校　國寄 智将　教諭
東　浩士　教諭

【参加者の感想】

・「子どもを信じて任せる覚悟」というお言葉がとても印象に残りました。「教えたつもり」の教員と「わかったつもり」「わかったふり」の子どもが増えているように思います。子どもも教師もワクワクする学びになるように、自由進度学習を正しく広めたいと思いました。

講座５：「消費者教育で生き抜く力を育む～貿易ゲームを体験して世界のつながりを楽しく学ぼう～」

８月 18 日(月)　会場：桐原小学校　少人数指導教室

講師：消費者教育コーディネーター　甲津 晃弘　氏
桐原小学校　林 大貴　教諭

【参加者の感想】

・消費者教育という言葉だけは耳にしていて、実際はどのようなものか全くわからなかったが、貿易ゲームを通して自ら感じ考えることで、世界につながる学びになることを感じた。就学前においても、遊びの中でできることがあるのではないか、普段の生活の中でも感じたり考えたりすることができるよう、工夫していきたいと思います。

講座６：「ロイロノートを活用した授業実践について～チャレンジ編～」

８月 18 日(月)　会場：金田小学校　会議室

講師：株式会社ロイロ　後藤 すみれ　氏

【参加者の感想】

・普段ロイロノートを授業の中で使うことが多いのですが、どうしても何かを書かせる→提出させるという単純なものとなってしまっていましたが、使い方次第で子どもたちの思考力を働かせ、わくわくさせるものになるのかと驚きました。これからも使わせていただきます!!

講座７：「思考力育成を目指した理科の授業づくり」

８月 19 日(火)　　会場：八幡東中学校　理科室

講師：八幡東中学校　　竹井　康二　教諭

【参加者の感想】

・子どもたちが不思議に思ったり、考えようと思えたりする課題を、これからも考えていき、授業の中で思考力を伸ばしていけるようにしていきたい。
・思考力を育成するための授業づくりについて、様々な先生と交流することができ、２学期以降の授業に活かしていきたいと思いました。

講座８：「学年経営講座」

８月 19 日(火)　　会場：八幡西中学校　視聴覚室

講師：八幡東中　遠藤彰教諭，八幡西中　長井一哉教諭
　　　桐原小　温井奈美子教頭，桐原東小　白嵜道代教諭

【参加者の感想】

・話してくださったことすべてが大切だと感じましたが、どのような子どもに育てたいのかという思いを学年主任が持ち、それを目指して学年全体で取り組んでいくことが大切ということを改めて感じました。その姿を目指して、どの学習で、行事で力を付けていくのかを考えたり、柱となる活動を仕組んだりすることが大切だと思いました。

講座９：「授業づくりについて～社会科の事例をもとに～」

８月 21 日(木)　　会場：八幡西中学校　視聴覚室

講師：八幡西中学校　　林　正人　教諭

【参加者の感想】

・「目的がぶれてはいけない」という言葉が１番響きました。今の私の授業は目的をほとんど意識できていないということを改めて反省しました。林先生の実践例、すべてを真似していきたいですが、まだ今の私にはレベルが高すぎて到底できそうにないので、まずはもう一度初心に帰って目的を意識して日々の授業を大切にしていこうと思いました。

講座 10：「福利厚生の事業を活用しよう！～みんなで使おう！お得な特典～」

８月 22 日(金)　　会場：桐原小学校　会議室

講師：桐原小学校　永野　ともこ　主任事務主査

【参加者の感想】

・教育文化振興事業のスキルアップ応援事業である自主研修を校内で取り入れられる職場であるといいなと思います。
・知らなかったお得がたくさんあることを知りました。もっと活用していきたいです。
・いつも受けている研修と全く違った内容で、とても楽しい有意義な時間を過ごすことができました。来年もこの講座があれば喜んで参加させていただきます。事務の方が持っておられる情報をもっと知りたいと思いました。

★令和７年度　近江八幡市教育研究所調査研究　生きる力から『生き抜く力』育成プロジェクト

５月号と７月号にて、『生き抜く力』について、また本研究のテーマと仮説についてお伝えしました。今回は研究の２つの柱について共有させていただきます。今年度は市内８校園と協力し、課題発見から課題解決までの過程を重視した、Ａ：近江八幡市課題探究学習「ナイス　トライ」(研究校２校と連携)，Ｂ：近江八幡市学び方改革「学びに夢中」(研究協力６校園の協力教員と連携）の２つの実践を行っています。

Ａ「ナイストライ」では、生活科や総合的な学習の時間を用いて、子どもの『課題発見』を重要視した課題探究学習での子どもの学ぶ姿を検証します。各研究校には各学年で目指す姿を設定し、探究のサイクルを回すことを意識した年間活動計画の作成も行っていただいています。

Ｂ「学びに夢中」では、子どもが自ら問いを立て、主体的に(夢中になって)、仲間と協力し、課題解決に向かう保育・授業実践に挑んでいます。教師主体からの脱却を目指し、“子どもに委ねる”をキーワードに、探究的な学びを意識した授業実践から、子どもの学ぶ姿の変容を検証します。

【お詫び】教育研究所だより「輝動」(７月号）において、研究協力教員（八幡西中学校）のお名前に間違いがありました。正しくは大塚将太教諭です。申し訳ありませんでした。お詫びして訂正いたします。

※前号より、各校園所の教職員にはメールにて配信しています。